

イランにおける中央アジア史研究の一側面 ——議会図書館発行の専門誌からの視界——

諫早 庸一



議会図書館前

1. はじめに

本論は、イラン・イスラム共和国（以下「イラン」と略称）における歴史学研究の一大拠点であるイスラム議会図書館⁽¹⁾の専門誌の一部を紹介し、当地の中央アジア史研究の一端を垣間見ようとするものである。紹介するのは、議会図書館が刊行する写本・文書学の専門誌と、当該図書館が所蔵する写本の出版を旨としたシリーズ出版物である。専門誌自体の紹介の後で、そのなかに掲載される中央アジア史研究についての論稿をピックアップし、イラン国内における中央アジア史研究の動向を看取する。そうしたうえで、他の分野や議会図書館以外で出版された専門誌の紹介を加えて本論を締めくくることとする。

近年イランにおける歴史学研究の環境は、特に写本目録の整備・刊行や史料のデジタル化の促進などによって大きく改善した⁽²⁾。さらに、多くのアラビア文字写本を所蔵するイラン

⁽¹⁾ 以後「議会図書館」と略称する当該機関の正式名称は「イスラム議会図書館・ミュージアム・文書センター Ketāb-khāne, Mūze va Markaz-e Asnād-e Majles-e Shūrā-ye Eslāmī」であり、イスラム議会に付属する、図書館以外の機能も有する複合機関である。

⁽²⁾ これについては大塚氏による研究動向を参照されたい [大塚 2011]。

においては、随時史料が発掘・刊行され、研究の進展に大きく寄与している⁽³⁾。

本論もまた、こうしたイランにおける研究環境の改善、研究の深化の紹介であるが、特に専門誌に注視したものとなっている。イラン国内での写本目録の作成や写本のデジタル化、校訂やファクシミリ・テキストの公刊には現在までも大きな関心が払われ、かなりの速度で日本にも情報が伝わっている印象があるが、イラン国内で刊行されている専門誌における史料の刊行・研究については、比較的情報が少ないのが現状であるように思われる。特にイラン国内における中央アジア史研究ともなれば尚更その傾向は顕著である。本論はこうした問題意識に基づき、議会図書館が刊行する「バハーレスタン系」の刊行物を取り上げ、その内容を紹介し、そのなかで特に中央アジア史研究の現状を垣間見ようとするものである⁽⁴⁾。

2. 「バハーレスタン系専門誌」

まずは、本論で主に扱う「バハーレスタン系」の専門誌がいかなるものであるのか説明が必要であろう。「バハーレスタン」とはイスラム議会および議会図書館の所在地のことであり、議会図書館はこの名に因んだ研究専門誌を幾つか発行している。本論ではそれらを「バハーレスタン系専門誌」と総称することにする。本論で扱う専門誌は具体的には以下の5つである⁽⁵⁾。

1. 『バハーレスタンの手紙 *Nāme-ye Bahārestān*』(2000年～：年2巻刊行)

⁽³⁾ 例えば、最近校訂出版された『モンゴルの諸情報 *Akhbār-e Moghūlān*』もそうした史料の1つである [Afshār 2010]。高木氏がこの史料の紹介と分析を行っている [高木 2011]。

⁽⁴⁾ ただし、本論では議会図書館の刊行物に注目するものの、イランにおける中央アジア史研究の拠点は議会図書館だけでは無いことも申し添えておく必要がある。テヘラン大学歴史学科の修士課程にある中央アジア・カフカース専攻は毎年のように未来の研究者を輩出し続けており、さらに国立図書館・文書館 *Sāzmān-e Asnād va Ketāb-khāne-ye Mellī-ye Īrān*、外務省外交文書館 *Markaz-e Asnād va Tārīkh-e Dīplomāsī-ye Vezārat-e Omūr-e Khāreje* などに所蔵される中央アジア史関係の諸史料、これらの機関が発刊する出版物も極めて重要である。加えて、イランと中央アジア諸国との研究協力の樹立と、それに基づく関係書の出版も無視できるものではない。本論では紙面の都合及び筆者の力量不足により、こうした重要な諸面には必ずしも言及できないことを予めお断りしておく。これらのことを的確にご指摘くださった大塚修氏にこの場で感謝申し上げたい。

⁽⁵⁾ ただしバハーレスタン系の専門誌はこれだけではなく、例えば他にも個々の研究者への記念論集である『バハーレスタンの贈物 *Armāghān-e Bahārestān*』なる刊行物も不定期ではあるが発行されている。ちなみに第1巻はアフマド・ゴルチーン・マアーニー氏に対する記念論集となっている [Imānī 2004/05]。

2. 『バハーレスターンの伝言 *Payām-e Bahārestān*』(第2期 2008年～: 季刊)
3. 『バハーレスターンの文書 *Asnād-e Bahārestān*』(2011年～: 季刊)⁽⁶⁾
4. 『バハーレスターンの宝物 *Ganjīne-ye Bahārestān*』(2000/01年～)
5. 『バハーレスターンの遺産 *Mirāth-e Bahārestān*』(2009年～)

まずはこれら専門誌がそれぞれいかなる視座でもって、どういった内容のものを掲載しているのかを個別に見ていきたい。そのなかで、こうしたバハーレスターン系の専門誌において中央アジアに関する論稿がどれだけあり、どういったテーマを扱っているのか、個々の専門誌毎に簡単に述べる。なお、ここでは「中央アジア」の地理領域を便宜的に、旧ソ連領中央アジア諸国と中国新疆ウイグル自治区を中心とした地域と定義し、基本的にはこれらの地域に関係のある論稿を「中央アジアに関するもの」とする。

「専門誌」のカテゴリーについても言及が必要であろう。「専門誌」と一括りにしてはいるが、上に挙げた1～3までのものが「雑誌」、4と5は「書籍」に分類され、それぞれ異なるカテゴリーのもとで図書館に所蔵されていることに留意されたい。

『バハーレスターンの手紙』



『バハーレスターンの手紙』13-14巻(2007-08年)

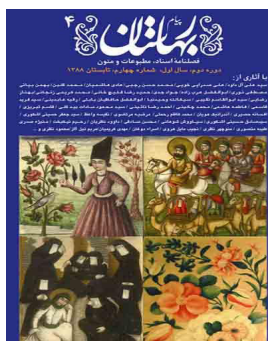
当専門誌の第1巻の冒頭には編集責任者による覚書が付けられており、この専門誌の位置づけが明確に述べられている。

...『バハーレスターンの手紙』は写本学に関する研究専門誌であり、研究者たちに対し手書き写本や文書に関する科学的研究を促し、[そういった文物の]認知・維持・保存・修繕・再生・批評・紹介・その他について道を開くために初めて準備されたものである。
... [NB: vol.1, 4].

⁽⁶⁾ 当雑誌以外にも同名のシリーズが存在し、文書の刊行がなされている。例えば当シリーズの第7冊目は立憲期の女性たちに関する諸文書に充てられている [Torkchī & Tātarī 2011]。

当該誌は上記のように写本学の専門誌であり、中央アジア史に関するものも散見される。セルジューク朝からホラズムシャー朝、モンゴル時代初期にかけての書簡集の紹介もそうしたものの1つである [Mas'ūdī & Moṭṭalebī-Kāshānī 2001]。中央アジアの人物・王朝・宗派などに注視した論稿は一定数あるが、ここではテヘラン大学のモハンマド・レザー・シャフイーイー・キャドキャニー氏による諸論をその代表として挙げておきたい [Shafī'i-Kadkanī 2001/02; 2007/08; 2009]。当該誌は、写された作品の紹介・翻訳・研究以上に、写本・文書・刊行物そのものの特性・性格・形態、そうした文物の作成技術・過程・職人を扱った論稿が毎号多く見られる。マーワラーアンナフルの製本職人たちについての論稿もそうした例の1つである [Ja'farī-Madhhab 2002; Afkāri 2002/03]。ごく稀にはあるが、アラビア文字史料以外のものを扱う論稿も見られ、イル・ハン朝アブー・サイード期（1316–1335年）のウイグル文字文書についての考察がある [Sūdāvar 2010]。校訂本の批評や新刊の写本目録の紹介、国外図書館に所蔵される諸写本についての論稿も多い。中央アジアに関わる例としては、タジキスタン国立図書館に所蔵されているマムルーク朝史家マクリーズィー（1364–1442年）の手になる新出写本が紹介されている [Bahrāmīyān 2005/06]。

『バハーレスターンの伝言』（第2期）



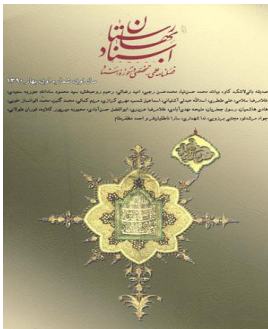
『バハーレスターンの伝言』第4巻（2009年）

当該誌は方々の図書館、特に議会図書館に所蔵された文書や印刷物、その他の史料のなかで未だに手付かずのものを出版するとともに、それについての正確な情報を研究者たちに提供することを目的としている [PB: vol. 1, back cover]。公刊はほぼ順調に続けられ、2011年12月現在13号までが発刊されている。近年は頻繁に特集号が組まれ、例えば10号の補遺（2011年）としてイランにおける議会の歴史についての特集号が刊行された。同様に12号の補遺（2011年）も議会の歴史に充てられている。さらに13号の補遺（2011年）は伝統医療についての特集号となっている。それぞれの号において、議会図書館が購入したばかりの

写本のリストが載せられることも多い。写本よりも文書・印刷物に傾斜しているため『バハーレスターンの手紙』に比べれば、近代以降についての論稿が多く見られる。

中央アジア史研究に関して言えば、19 世紀終盤から 20 世紀初頭にかけてのカフカース地方におけるイラン人に関する論稿がいくつか見られる [Hāshemiyān 2009; Aḥmadī 2010; ‘Asgarī 2010]。さらにファトフアリー・シャー期（1797–1834 年）におけるロシア使節によるイラン見聞記 [Heydarī 2009]、反対に同時期におけるイラン側からのロシア訪問記なども紹介されている [Kamālī 2011]。その他、未だに研究が十分には進んでいないイラン国内におけるテュルク語諸写本の紹介（当該論文では議会図書館のもののみ）なども中央アジア史研究に関わるものとして挙げることが出来よう [Sīchānī & Tāramsarī 2009]。もちろん前近代史に関するものも一定数存在し、例えばティムール朝末期からサファヴィー朝勃興期にかけてのホラーサーン地方の騒乱に関する論稿がある [Mollā’ī 2011]。

『バハーレスターンの文書』



『バハーレスターンの文書』第 1 巻（2011 年）

名前の通り、文書学の専門誌として 2011 年より刊行され始めたものであり、2011 年 12 月現在、3 号が発行されている。編集責任者のラスール・ジャアファリヤーン氏によれば、これ以前にも『バハーレスターンの伝言』のなかで文書についての論稿が多く発表されてきたものの、議会図書館の文書部門そのもの及び当該部門の活動を広めることの重要性ゆえに、こうした文書学の専門誌の発刊に至ったという [AB: vol.1, 9]。文書についての論稿以外に、文書の翻刻および写真などが掲載される。ちなみに第 3 号は第 2 回議会史カンファレンスの Proceedings に充てられている。

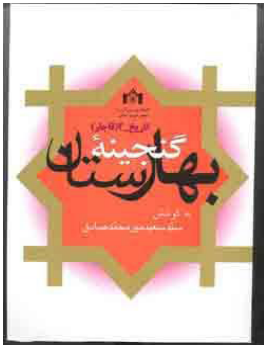
今のところ中央アジアについての専論は出ていないが、ロシア関係のものがいくつか見られ [Hasan-Niyā 2011; Shams 2011]、さらにイラン国内の文書館や議会図書館が最近購入した文書の紹介論文が載せられている [‘Azīzī 2011; Shahmāri 2011]。

『バハーレスタンの宝物』

当該誌は議会図書館に所蔵される分量の少ない写本作品（リサーラ）を以下の8つの分野ごとに提示するものである。当該誌は写本の収集・査定を前提とし、非常に時間を要するテクニカルな校訂作業を志向してはならず、議会図書館所蔵の価値のあるリサーラを研究者に紹介し、それについての二次的研究を促すためのものであるとされている [GB: vol. 1, *bīsto chahār-bīsto panj*]. 分野毎に未刊行のもの、複数巻出版されているものがあるが、2011年12月現在18巻まで刊行されている。それぞれの分野において時折特集号が組まれることもある。

1. クルアーンおよびハディース学 ‘Olūm-e Qor’ānī va Ravā’ī
2. 英知の学 Ḥekmat (論理学 Manteq・哲学 Falsafe・神学 Kalām・神秘主義的哲学 ‘Erfān)
3. 法学・法源学 Feqh va Oṣūl
4. ペルシア語文学 Adabiyāt-e Fārsī
5. アラビア語文学 Adabiyāt-e ‘Arabī
6. 歴史地理 Tārīkh va Joḡhrāfiyā
7. 倫理学 Akhlāq
8. 科学技術 ‘Olūm va Fonūn

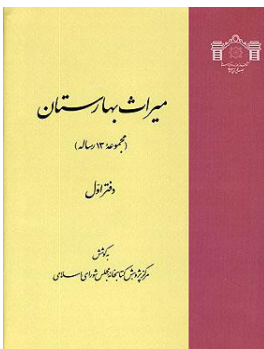
『バハーレスタンの宝物』			
巻数	分野	刊行年	特集
1	英知の学	2000/01 年	
2	ペルシア語文学	2000/01 年	
3	クルアーンおよびハディース学	2001/02 年	
4	アラビア語文学	2002/03 年	
5	法学・法源学	2002/03 年	
6	歴史地理	2007 年	
7	科学技術	2007 年	医術
8	クルアーンおよびハディース学	2004/05 年	
9	ペルシア語文学	2000/01 年	韻文
10	科学技術	2007 年	医術
11	英知の学	2008 年	
12	歴史地理	2009 年	カージャール朝
13	未刊行		
14	未刊行		
15	クルアーンおよびハディース学	2006 年	
16	科学技術	2008 年	「馬の書 <i>Faras-nāme</i> 」
17	歴史地理	2009 年	インド亜大陸
18	クルアーンおよびハディース学	2011 年	



『バハーレスターンの宝物』第12巻歴史篇（2009年）

中央アジア史に関するものとしては、いずれもシャイバーニー朝ウバイドゥッラー・ハーン（治世 1533–1540 年）に献じられた 2 つのリサーラを例として挙げることができよう。第 16 巻のシャー・クリー・アミール・アーフルの手になる『馬の書 *Faras-nāme*』と、第 18 巻のヤール・ムハンマド・フダーダード・サマルカンディーによる『クルアーンの諸原則 *Qavā'ed al-Qor'ān*』がそれである [Bābāpūr 2008; Karamī 2011]。

『バハーレスターンの遺産』

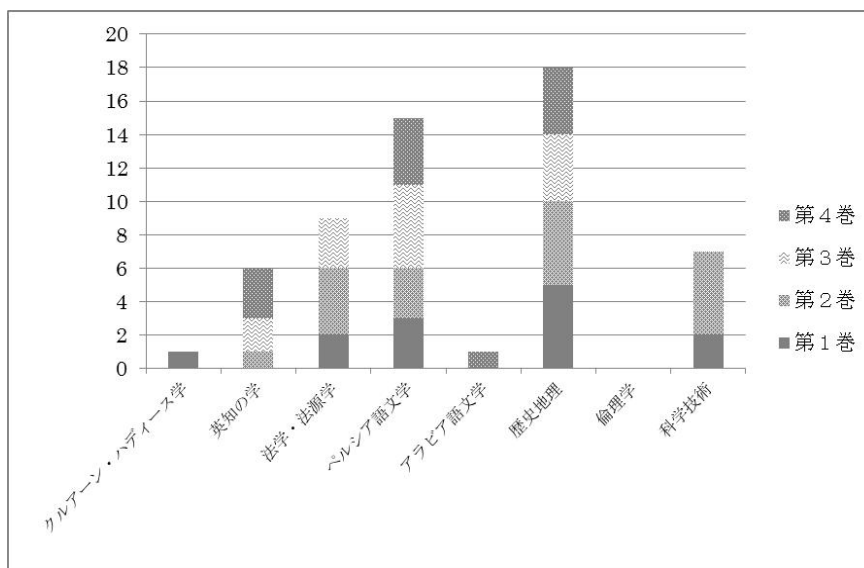


『バハーレスターンの遺産』第1巻（2009年）

現在 4 巻までが刊行されている当該誌は、先に紹介した『バハーレスターンの宝物』シリーズの後に企画され、基本的にはその路線を継承している。つまり、議会図書館に所蔵される比較的短く、専門的なリサーラの出版を目的としたものである。しかし、前シリーズと異なり、今シリーズは分野毎の出版という形式を取っていない [MB: vol. 1]。1 巻毎に内容別の章立てはあれど、雑多なリサーラが並んでいる。例えば 1 巻（2009 年）は 13 のリサーラが収録されているが、その内訳はペルシア語文学 3、歴史地理 5、クルアーン・ハディース学 1、科学技術 2、法学・法源学 2 となっている。他の巻に収録されているリサーラの分類は以下の通り。今までのところペルシア語文学と歴史地理のリサーラが多い。

- 2 巻 (2010 年)、19 リサーラ (分類無し 1 : ペルシア文学 3 : 歴史 5 : 英知の学 1 : 科学技術 5 : 法学・法源学 : 4)
- 3 巻 (2011 年)、14 リサーラ (ペルシア文学 5 : 歴史 4 : 英知の学 2 : 法学・法源学 3)
- 4 巻 (2011 年)、12 リサーラ (アラビア語文学 1 : ペルシア語文学 4 : 歴史 4 : 英知の学 3)

中央アジアに関するものを挙げていくと、ティムール朝ウルグ・ベク (在位 1447-1449 年) 治下のサマルカンドで学を修め、後にオスマン朝領に渡ったファトフラー・シールワーニーのリサーラ『音楽についての論稿 *Majallat fi al-Mūsīqī*』が校訂されている [Hoseynī & Qazānī 2010]。テュルクメン襲来の際に、ゴルガーン近郊の町キャリーマーバードをめぐって起きた係争についてのガージャール朝期のリサーラ『キャリーマーバードの諸係争 *Monāza‘āt-e Karīmābād*』も中央アジア史の範疇であろう [Ja‘fariyān 2011]。



3. その他の専門誌の状況

その他、バハーレスターン系以外にも議会図書館から写本学の専門誌として『古き諸頁 *Ourāq-e ‘Atīq*』(2010 年～) が近年刊行され始めた。まだ第 1 巻が刊行されたのみであるが、

写本目録も多く載せられている。全3巻で後2巻が議会図書館から発行されている『写本研究 *Noskhe-pazhūhī*』(2004–2006年：全3巻)も重要である。議会図書館以外からも、ゴムのマルアシー図書館 *Ketāb-khāne-ye Āyatollāhol-‘ozmā Mar‘ashī Najafī* からこの分野の専門誌として『写本学 *Noskhe-shenāshī*』(2010年～)が出版されており、巻号を重ねている。

史料の校訂や研究が掲載される専門誌で他に注目すべきものとしては、2011年に逝去したイラン学研究的の大家イーラジ・アフシャール氏編集の『イランの地の文化 *Farhang-e Īrān-zamīn*』(1953/54–2005/06年：全30巻)⁽⁷⁾、ゴムのマルアシー図書館が刊行する『イラン・イスラムの遺産 *Mīrāth-e Eslāmī-ye Īrān*』(1994/95–1999年：全10巻)とその続編である『永久の遺産 *Mīrāth-e Māndegār*』(2003年～)、マシュハドのラザヴィー図書館 *Sāzmān-e Ketāb-khāne-hā, Mūze-hā va Markaz-e Asnād-e Āstān-e Qods-e Razavī* の財団による『ペルシアの論稿集 *Majmū‘e-ye Rasā’il-e Fārsī*』(1989年～)などを挙げることができる。

写本・文書学や歴史学という大きな括りで論稿を募る総合誌以外にも、より限定された分野に関して専門誌が刊行されている。例えば、近年各地で研究が進むワクフに関する専門誌『ワクフ：永久なる遺産 *Vaqf: Mīrāth-e Jāvidān*』(1993年～)もある⁽⁸⁾。他にも、テヘラン大学科学史研究所が刊行する『科学史 *Tārīkh-e ‘Elm*』(2003年～)は中東から中央アジアにかけての地域において発行される数少ない科学史の専門誌の1つであり、この分野における史料の校訂・研究などがペルシア語・英語で出版される。

なお、議会図書館は近年にイラン国内で刊行された雑誌の目録も出版しており、こうしたものに目を通すことで、より広範な分野における専門誌の出版状況の把握が可能になると思われる [e.g. Heydari 2010]。さらに、ここに挙げた雑誌に掲載される論文の多くはイランの雑誌デポジトリ・サイト *Noormags* から無料でダウンロードでき、利用価値の高いものとなっている⁽⁹⁾。

4. おわりに

これまでバハーレスタン系専門誌を紹介し、そのなかに収録される中央アジア史関係の

⁽⁷⁾ 中断と復刊を繰り返しながら長期にわたって刊行され続けてきた当該誌であるが、最近 *Enteshārāt-e Sokhan* から全30巻(2006/07年)が復刊され、入手しやすくなった。価格は250,000トマン(2011年12月11日現在のレートで15,000円ほどである)となっている。

⁽⁸⁾ ワクフに関してはイラン国内でも近年急速に刊行物が増え、この分野についての書誌や専門用語についての研究書も多く目にする。議会図書館からも最近サファヴィー朝のワクフに関するモノグラフが出版された [Ahmadi 2011]。

⁽⁹⁾ サイトのアドレスは以下 URL: <http://www.noormags.com/view/fa/default>, 閲覧日 2011年12月10日。簡単な登録の後、収録されているペルシア語雑誌の論文をダウンロードできる。

論稿を見てきたが、近代以降を扱うものに関しては、現在までのところその数はあまり多くはない。しかし、僅かでも中央アジアに関連するものも含めれば、その数は相当に多くなるであろうし、そもそも前近代史に関してはこうした地理区分が必ずしも意味を為さないことは周知の通りである。バハーレスタン系専門誌が中央アジアを専門とする研究者たちにとっても有意なものであることはここで改めて強調するまでもない。

バハーレスタン系のものを筆頭に、こうした専門誌のほとんどに共通する特徴としてここ10年以内に刊行され始めたことが挙げられる。イランの史料公開を旨とした写本学・文書学その他の専門誌の刊行はまだ歴史が浅く、今後ますますの進展が期待される⁽¹⁰⁾。我々はこれらの専門誌に継続的に注視していくことが必要であろう。最後に、バハーレスタン系専門誌を始め、多くの専門誌の編集を主導し、議会図書館のデジタル化の推進にも大きな役割を果たしている、議会図書館の現館長ラスール・ジャアファリヤーン氏にもう一度言及しておきたい。氏の歴史学に対する理解の深さと適正な処置に、イランの歴史学界が受けた恩恵は実に大きい。心から敬意を表したい。



バハーレスタン系の専門誌を取り扱う本屋「トゥース」⁽¹¹⁾

【付記】

本論の執筆に当たって、イラン留學生活の盟友である爲永憲司氏に実に多くの情報・史料提供を得た。氏の協力が無ければ、当該論文の記述はこれ以上にずいぶんと内容の薄いもの

⁽¹⁰⁾ 議会図書館の職員の言によれば、『バハーレスタンの印刷物 *Maṭbū'āt-e Bahārestān*』なる雑誌も近々刊行される予定であるとのことである。

⁽¹¹⁾ Ketāb-forūshī-ye Tūs. 住所: Īrān, Tehrān, Khiyābān-e Enqelāb, Khiyābān-e Dāneshgāh, Pelāk-e 178.

になってしまっていたであろう。氏の協力に感謝し、その学識に敬意を表する。留学の先輩である大塚修氏にも感謝申し上げたい。そもそも、私が留学する際に雑誌の重要性を説いて下さったのは大塚氏であった。感謝を記すべき方々のなかに森本一夫氏を逸することは出来ない。氏は短いイラン滞在の期間のなかで原稿に目を通し、コメントしてくださった。ただし、申し上げるまでも無いことであるが、本論に見出される誤りの責任は全て筆者にある。議会図書館の職員であるマジード・サーエリー・コルデデ氏にも、図書館の刊行物のリストを提供していただくなど、便宜を図っていただいた。謹んで御礼申し上げる。

本論の執筆に当たっては日本学術振興会の助成を得た。

参考文献

AB : *Asnād-e Bahārestān* [バハーレスターンの文書]

GB: *Ganjīne-ye Bahārestān* [バハーレスターンの宝物].

MB: *Mīrāth-e Bahārestān* [バハーレスターンの遺産].

NB: *Nāme-ye Bahārestān* [バハーレスターンの手紙].

PB: *Payām-e Bahārestān* [バハーレスターンの伝言].

Afkārī, Farībā. 2002/03. “Jeld-sāzān-e Mā-varā’-an-nahrī az Sade-hā-ye 13 va 14 Hejrī: Dar Majmū’e-ye Noskhe-hā-ye Ketāb-khāne-ye Vezārat-e Omūr-e Khāreje [ヒジュラ暦 13-14 世紀以降のマーワラーアンナフルの製本職人たち：外務省図書館の写本コレクションから],” NB 6, pp. 407-422.

Afshār, Īraj, ed. 2010. *Akhbār-e Moghūlān dar Anbāne-ye Qoṭb* [クトゥブ（ツディーン・シーラーズィー）の知恵袋の中のモンゴルの諸情報], Qom: Ketāb-khāne-ye Āyatollāhol-‘ozmā Mar’ashī Najafī.

Aḥmadī, Mehdī. 2010. “Asnādī az Īrāniyān-e Shomāl-e Qafqāz dar Ārshīv-e Ketāb-khāne-ye Majles-e Shūrā-ye Eslāmī [議会図書館の文書館所蔵北カフカースのイラン人による諸文書],” PB 7, pp. 335-342.

Aḥmadī, Nezhat. 2011. *Dar Bāb-e Ouqāf-e Šafavī* [サファヴィー朝の諸ワクフについて], Tehrān: Ketāb-khāne, Mūze va Markaz-e Asnād-e Majles-e Shūrā-ye Eslāmī.

‘Asgarī, Sāre. 2010. “Siyāhat-nāme-ye Ebrāhīm Beyg: Romānī Tārīkhī yā Bayāniye’ī E’terāzī; Bāz-khānī-ye Asnādī az Shekāyat-e Mohājerīn-e Qafqāz az Konsūl-garī-ye Īrān [イブラーヒーム・ベクの旅行記：歴史小説あるいは告発の声明：カフカースへの移民によるイラン領事館に対する告訴諸文書再読],” PB 7, pp. 517-552.

- ‘Azīzī, Gholām-Rezā. 2011. “Mo‘arrefī-ye Pazhūheshkade-ye Asnād-e Sāzmān-e Asnād-e Mellī-ye Īrān [イラン国立文書館文書研究部の紹介],” AB 1, pp. 359–368.
- Bābāpūr, Yūsuf-Beyg, ed. 2008. “Shāh Qolī Mīr Ākhūr, *Faras-nāme* [シャー・クリー・ミール・アーフール『馬の書』],” GB 16, pp. 329–404.
- Bahrāmīyān, ‘Alī. 2005/06. “Atharī Nā-shenākhte az Maqrīzī (Montakhab-e *Dorrat al-Aslāk fī Doulat al-Atrāk* az Majmū‘e-ye Khvāje Moḥammad Pārsā) [マクリーズィーの手になる新出作品（ハージャ・ムハンマド・パールサー・コレクションにある『テュルクの王朝における諸王統の真珠』の摘要)],” NB 11–12, pp. 211–216.
- Hasan-Niyā, Moḥammad. 2011. “Raftār-e Rūsīye dar Qebāl-e Shekl-gīrī-ye Sherkat-e Naft-e Īrān va Engelīs [イラン・イギリス石油会社設立に際してのロシアの対応],” AB 1, pp. 40–59.
- Hāshemīyān, Hādī. 2009. “Do Neẓām-nāme-ye Madāres-e Īrānīyān dar Qafqāz [カフカースにおけるイラン人マドラサの規定書2通],” PB 5, pp. 77–118.
- Heydarī, Āzāde. 2009. “Barrasī-hā-ye Safar-nāme-ye Mūrīs dū Kūtbū‘ye-ye Rūsī: Mosāferat be-Īrān dar Ma‘īyat-e Safīr-e Kabīr-e Rūsīye dar Sāl-e 1817 m. [ロシア系モーリス・コツェブーによる旅行記の研究：西暦1817年ロシア大使随行員としてのイラン旅行],” PB 4, pp. 507–512.
- . 2010. *Fehrest-e Majalle-hā-ye Ketābkhāne, Mūze va Markaz-e Asnād-e Majles-e Shūrā-ye Eslāmī az Ebtedā tā Pāyān-e Sāl-e 1386* [1386年までの議会図書館雑誌目録], Tehrān: Ketābkhāne, Mūze va Markaz-e Asnād-e Majles-e Shūrā-ye Eslāmī.
- Hoseynī, Seyyed Moḥammad-Taqī & Qazānī, ‘Alī, ed. 2010. “Fathollāh Shīrvānī, *Al-Majjalat fī al-Mūsīqī* [ファトフッラー・シールワーニー『音楽についての論稿』],” MB 2, pp. 641–740.
- Īmānī, Behrūz, ed. 2004/05. *Nāme-ye Ma‘ānī (Yād-nāme-ye Ostād Aḥmad Golchīn Ma‘ānī)* [マアーニーの手紙（アフマド・ゴルチーン・マアーニー先生記念論集)], *Armaghān-e Bahārestān* 1, Tehrān: Ketāb-khāne, Mūze va Markaz-e Asnād-e Majles-e Shūrā-ye Eslāmī.
- Ja‘farī-Madhhab, Moḥsen. 2002. “Yādī az Shaḥḥāfān-e Mā-varā’-an-nahr [マーワラーアンナフルの製本職人たちについての覚書],” NB 5, pp. 220–224.
- Ja‘fariyān, Rasūl. 2011. “Moḥammad Šāleḥ b. Moḥammad Taqī b. Moḥammad Esmā‘īlī Astarābādī, *Monāza ‘āt-e Karīmābād* [ムハンマド・サーリフ・ブン・ムハンマド・タキー・ブン・ムハンマド・イスマーイール・アスタラーバーディー『キャリーマーバードの諸係争』],” MB 3, pp. 773–844.
- Kamālī, Maryam. 2011. “Safar-nāme-ye Rūsīye (Rūz-nāme-ye Safar-e Peṭerzbūrgh, Safar-nāme-ye Mīrzā Mas‘ūd Mostoufī be-Rūsīye 1344 q.), Negārānde: Moṣṭafā Afshār b. Naṣrollāh [ロシア旅行記（ペテルブルクへの旅行日録、ヒジュラ暦^{ママ}1344年ミールザー・マスウード・ムス

- タウフィーのロシア旅行記)、著者ムスタファー・アフシャール・ブン・ナスルッラー],” PB 11, pp. 117–130.
- Karamī, Bīzhan. 2011. “Yār Moḥammad Khodādād Samarqandī, *Qavā‘ed al-Qor‘ān* [ヤール・ムハンマド・フダーダード・サマルカンディー 『クルアーンの諸原則』],” GB 18, pp. 245–342.
- Mas‘ūdī, Akramī & Moṭṭalebī-Kāshānī, Nāder, ed. 2001. Moḥammad Qazvīnī & ‘Abbās Eqbāl Āshtiyānī. “Moqaddame‘ī bar Majmū‘e-ye Marāselāt-e Rasmī-ye Dīvān-e Saljūqiyān va Khwārazm-shāhiyān va Avāyel-e ‘Ahd-e Moghūlān [セルジューク朝、ホラズムシャー朝およびモンゴル時代初期ディーワーンの公式書簡集成についての序文],” NB 3, pp. 75–110.
- Mollā‘ī, Mostafā. 2011. “Ouzā‘-e Siyāsī-ye Nā-ārām-e Khorāsān dar Keshākesh-e Dargīrī-hā-ye Tīmūriyān bā Ozbakān va Āghāz-e Kār-e Šafaviyān (bā Tekye bar Maru) [ティムール家とウズベク、勃興期サファヴィー家との騒乱による政治不安定期ホラーサーンの様相 (マルヴを中心に)],” PB 11, pp. 543–558.
- 大塚修 2011 「イランにおける研究環境の改善：写本総目録の編纂を中心に」『イスラム世界』77、31–38 頁。
- Shafī‘ī-Kadkanī, Moḥammad-Rezā. 2001/02. “Maqāmāt-e Kohan va Nou-yāfte-ye Abū Sa‘īd Abūl-Kheyr [アブー・サイード・アブル・ハイルの新出・古スーフイー伝],” NB 4, pp. 65–78.
- . 2007/08. “Yek Matn-e Karrāmī-ye Kam-rang Shode. [カッラーミー派色を薄められたテキスト],” NB 13–14, pp. 177–188.
- . 2009. “‘Pīr-e Harī’ Gheyr az ‘Khawāje ‘Abdollāh Anšārī’ ast! [「ピーレ・ハリ」は「ハージャ・アブドゥッラー・アンサーリー」ではない!],” NB 15, pp. 185–192.
- Sīchānī, Mehdī Karīmīyān & Tāramsarī, Zahrā ‘Abdollāhī. 2009. “Mo‘arrefī-ye Majmū‘e-ye Nosakh-e Khaṭṭī be-Zabān-e Torkī-ye Ketāb-khāne-ye Majles-e Shūrā-ye Eslāmī [議会図書館所蔵テュルク語写本コレクションの紹介],” PB 4, pp. 627–652.
- Shahmārī, Nedā. 2011. “Fehrest-e Asnād-e Kharīdārī va Ehdā Shode be-Markaz-e Asnād-e Majles dar Sāl-hā-ye 1388 va 1389 [1388 年および 1389 年に議会文書センターに購入・寄贈された文書の目録],” AB 1, pp. 425–433.
- Shams, Esmā‘īlī. 2011. “Pazhūheshī-ye Asnādī dar Bāb-e Ouzā‘-e Sāvojbolāgh dar Keshmakesh miyān-e Rūsīye va ‘Othmānī dar Jang-e Jahān-e Avval [第一次世界大戦期サーヴォジュボラグにおけるロシア・オスマン朝間の係争の様相に関わる諸文書の研究],” AB 1, pp. 177–187.
- Sūdāvar, Abūl-‘Alā’. 2010. “Barrsī-ye Farmān-e Ūyghūrī-ye Abū Sa‘īd Bahādor Khān: va Ertebāt-e Ān bā Kashf-e Yekī az Ja‘l-hā-ye Tārīkhī-ye Šafaviye [アブー・サイード・バハー・ドウル・ハ

ーンのウイグル文字勅令の研究：サファヴィー朝による歴史の捏造の発見との関わり],”
NB 16, pp. 197–210.

高木小苗 2011 「クトゥブッディーン・シーラーズィー書写『モンゴルの諸情報』について—その基礎的研究とイルハン国初期の史料としての重要性」『アジア・アフリカ言語文化研究』82、95–143 頁。

Torkchī, Fāṭeme & Ṭaṭarī, ‘Alī, ed. 2011. *Asnād-e Bānovān dar Doure-ye Mashrūṭīyat* [立憲期の女性たちの諸文書], *Asnād-e Bahārestān* 7, Tehrān: Ketāb-khāne, Mūze va Markaz-e Asnād-e Majles-e Shūrā-ye Eslāmī.

(日本学術振興会、東京大学東洋文化研究所)